

ふいごの種類

ふいごは、伝統的な製鉄工程に欠かせない部品である。炉の内部温度を鉄を溶かすのに十分な高温に保つには、酸素を安定的に供給する必要がある、その供給源となるのがふいごである。ふいごには大きく分けて 3 つの種類がある；木製の板で作られたふいご、動物の皮で作られたふいご、ピストン状の筒で作られたふいごである。素材や形状は異なるが、ノズルやパイプを通して狭い空間から空気を送り出すという機能は概ね同じである。

6 世紀後半から野だたらで使われるようになった最古のふいごは、動物の皮で作られていた。8 世紀に書かれた『日本書紀』にも鹿革のふいごが登場する。しかし、8 世紀以降は板鞆の方が広く使われるようになったと考えられている。

たたら製鉄で使われた板ふいごには、手で操作する箱ふいご、足で操作するシーソーのようなふいごの 2 種類があった。1600 年代後半、鉄工職人たちは後者のふいごを大型化・改良し、巨大な秤に似ていることから天秤ふいごと名付けた。天秤ふいごは、より強力で、操作に必要な人員の数も少なかった。この技術が普及するにつれ、箱ふいごは鍛冶場や鍛冶場の小さな炉に追いやられた。